



ちゅうおう



私たちには 森がある

デジタル版はこちら



Multilingual

2面・3面に続きます

世界平和を願って



中央区長
やまもと たいと
山本 泰人

8月15日は終戦記念日です。1945年のこの日、日本は大きな苦難を経て、平和への道を歩み始めました。今日、私たちが営むことができる平穏な日常は、戦禍を生き抜き、想像を絶する困難の中でこの国を再建してきた先人たちのたゆまぬ努力の上に成り立っています。戦後もなお、平和への願いを訴え続けてこられた多くの方々の心の声に触れるとき、私たちは今の時代を託された者としての責任の重さを改めて痛感いたします。

6月に日本橋プラザで開催された世界の書籍を紹介する展示会で、一冊の貴重な和綴の文集を目にしました。タイトルは「かがみ」。終戦後、オーストラリアに抑留された兵士たちが、厳しい抑留生活の中で互いを励まし合おうと綴り続けた記録です。編集責任者であった今井田勲氏が、復員の際リュックの裏側に括り付けて大

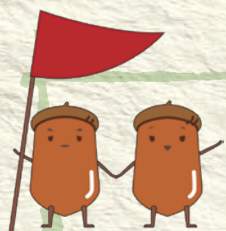
切に持ち帰ったというこの一冊には、過酷な状況下でも希望を捨てなかった人々の生への渴望と、家族や故郷を想う切なる願いが刻まれていました。

現在、本区は20万都市を目前に控え、安心・安全で、いつまでも住み続けたいまちを目指して歩みを進めています。しかし、この発展も、平和という礎があってこそのもです。平和が損なわれれば、私たちが築き上げてきた暮らしは一瞬にして水泡に帰してしまいます。8月15日の終戦記念日には、八重洲通りの「平和の鐘」、そして十思公園の「平和を奏でる「石町時の鐘」」の響きに心を澄まして耳を傾け、かけがえのない平和を次世代へ守り伝えていく大切さを、区民の皆様と共に改めてかみしめたいと思います。

先人の声に振り返り向く終戦日 泰人

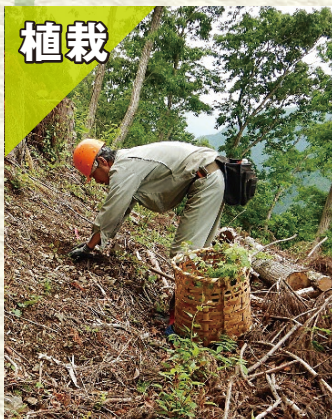
中央区がなぜ 森を育てているの？

都心では多くの二酸化炭素が排出されています。この課題に対し、行政区域を越えて地球温暖化対策に貢献したい— そんな思いから、本区は森林保全に着目しました。平成18年10月、全国に先駆けて檜原村と連携した「**中央区の森**」事業を開始し、今年、20周年を迎えます。



森の整備って どんなことをしているの？

植栽



新しい苗木を植える作業。スギやヒノキを中心とした針葉樹林に、ケヤキやカエデなどの広葉樹をバランスよく植栽しています。

下刈り



苗木を覆ってしまう雑草や小さな木を刈り取る作業。苗木に十分な日光と栄養を行き渡らせることで、成長を促します。

枝打ち



木々の成長に合わせて、余分な枝を切り落とす作業。枝が小さいうちに切り落とすことで、「節」のない美しく強度の高い木材になります。

間伐



混み合った木を間引く作業。木々に適切な間隔を作り、森の奥まで日光を届け、樹木の育成を促します。

製材



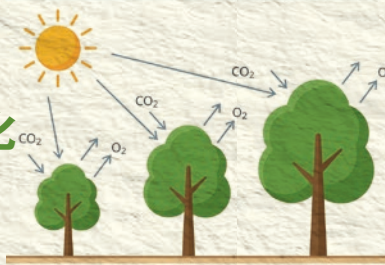
間伐した木のうち、木材として活用できるものは、用途に合わせて板や角材へと切り出します。

森林整備の大切さ

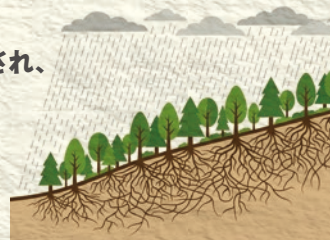
ふかふかの土が
水を蓄え
きれいに



CO₂を吸収し
地球温暖化
を緩和



土の根がはりめぐらされ、
土砂災害
を防ぐ



私たちの暮らしに
つながっているんだね！





光を取り戻した森



BEFORE

適切な手入れがされず放置された森。樹木が過密になり、日光を阻害し、土砂災害や倒木が起きやすく、森の機能が低下していました。

AFTER

適切な手入れを実施。樹木の間隔が適正に保たれ、日光が地面まで降り注いでいます。樹木の育成が促進され、二酸化炭素の吸収や土砂災害の防止など森林が持つ多面的な機能が十分に発揮されるようになりました。



**二酸化炭素を新たに
吸収・貯蔵できる森へ成長！**



「自然共生サイト」

長年の森林保全活動が、生物多様性を高める取り組みとして、令和8年3月に国の「自然共生サイト」に認定されました。

詳しくは区HPへ



木を生かしたまちづくり

中央区の森の木材は、私たちの身近なところで使われています。



晴海西小・中学校の
校舎建物



区役所前のベンチ



「本の森ちゅうおう」
の本棚



20年間森林整備に携わってきた方々に 「中央区の森」について伺いました

**Q:事業開始当初から現在まで、
森や山林の自然環境にどんな変化を感じますか**

山崎さん「当時の檜原村の森はまさに“手つかず”の状態。荒れた山を整備しようと試みる機運は地元には少なく、事業予算や人員的にも難しいという状況でした。そんな時、中央区との協業が発足。下刈りや間伐など基本的な作業から着手していきました」

大久保さん「手入れを怠った山では、木々が雪の重みで自然に倒れ、やがて枯れていきますので、倒木の片付けも大変な作業でした。森林整備で(目に見えませんが)風通しはもちろん、地中にたまった雨水の水持ちもよくなりました。森は酸素やさきい水の水の供給源として(都心部に住む方々にも)かけがえのない存在。暮らしに密接に関係する場所です」

Q:特に苦労したこと、良かったこと、課題などお話しいただけますか

山崎さん「誰かがやらないといつか森は確実に荒れていく。とはいえ、全部が苦労ですね(笑)。体力も使いますし。高齢化で担い手が減少する中、行政と連携したプロジェクトによって人材確保の面では大きなプラスを感じています」

大久保さん「整備が進んだ「中央区の森」は

見た目も大変きれい。見事に“美化”しています。まさに20年間の仕事の成果ですね。木・土地・山全体が息づいているようにも感じます。その一方、手つかずのまま荒れたままのエリアもまだ多い。見学に来られる方々にはこうした現状を知っていただき、森林整備の大切さを学んでほしいです」

Q:今後の思い、読者へメッセージなどお願いします

山崎さん「檜原村自然体験ツアーでは、「中央区の森」を訪れる回もありますので、山を散策するなど、ぜひ清々しい空気に触れて欲しいですね」

大久保さん「ツアー参加者は、皆さん、この山の空気がとても好きだと言ってくれます」

山崎さん「私たちにとってここは生活の場。(森林整備の仕事を通して)次世代の子どもたちにこの仕事をつなげたいです」

大久保さん「山の仕事は誇りを持てる仕事だということを知ってもらいたいです。退職後、山林の保全などの職種に就業を希望する人が増えたら嬉しいです」



特定非営利活動法人里山再生塾
理事長 **大久保さん**



やまざき
同法人事務局 **山崎さん**

区環境土木部環境課ゼロカーボン推進係
☎(3546)5654



**檜原村自然体験ツアーについては
4面をご覧ください**

